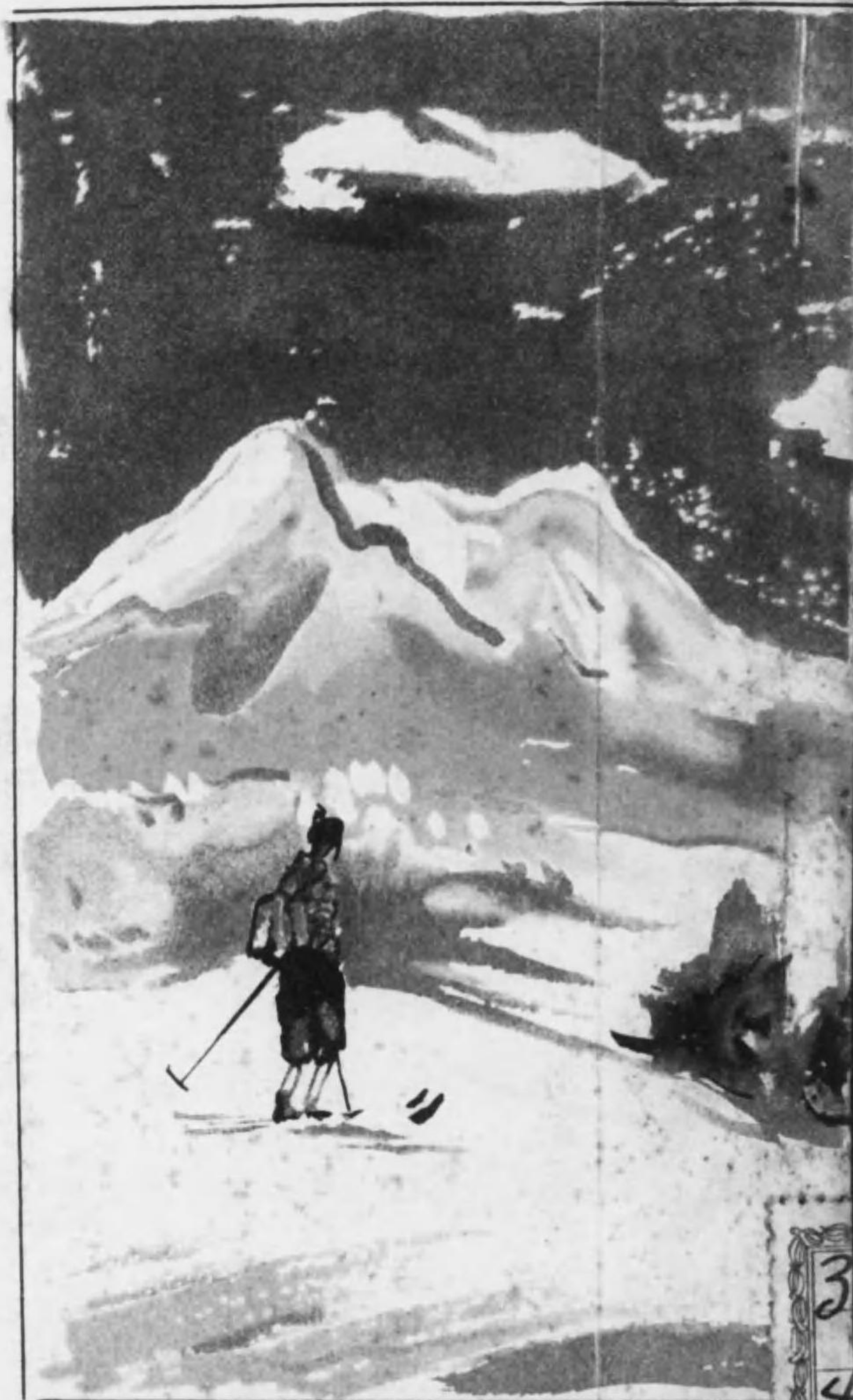


輯參第書 特252 熈

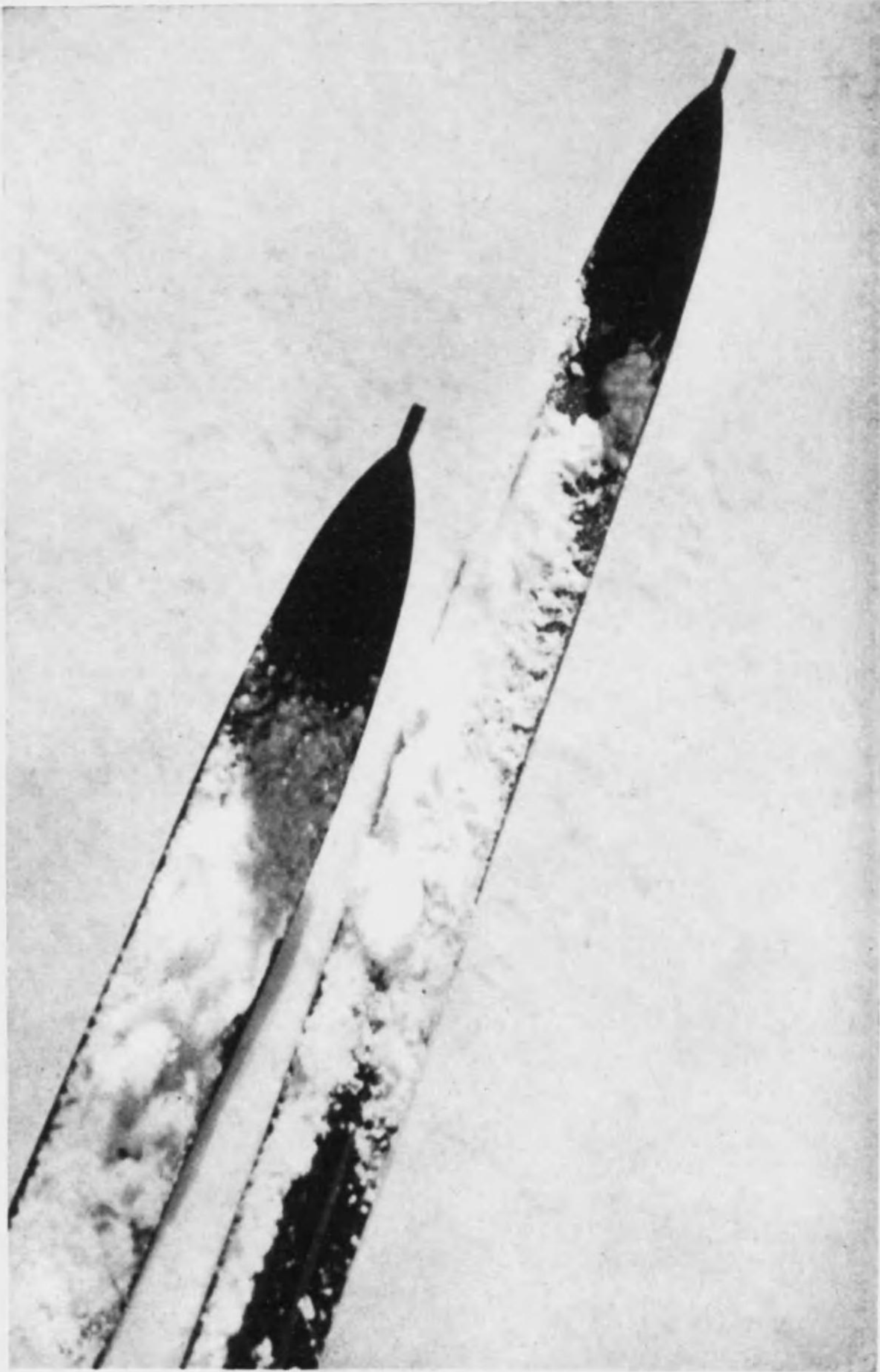
976

スキー適地案内



始





滋賀縣觀光叢書第3輯

ス キ 一 適 地 案 内

街 252
976

季刊 觀光の近江

滋賀縣觀光協會發行

本縣觀光協會機關誌として、春・夏・秋の三冊を既刊し、こゝに「冬」を主題とすると共に戦勝の新春を象徴した第二巻第一號を發行した。號を重ねるに従ひ、外觀内容共に新鮮充實せる本誌こそ觀光滋賀縣の誇るべきものたると同時に、あらゆる角度から眺めた滋賀縣の眞姿を示すものである。即ち、文化誌として本縣が全国的に誇示し得るものと信ずる。



はしがき

一、本縣は近畿地方に於て最もスキー適地の豊富な土地である。關西のスキーヤーにとつて本縣の山岳地帯は冬來ると共に賑ふが、從來各スキー適地に對する案内書のなかつたことを遺憾とし、茲に本書を編纂した。



本書に収録した適地は、大體交通會社の宣傳對象たる地を選んだものであるがツニアコース其他は今後スキーヤーの開拓を待つて増補し、適地に對する解説の不備は今後讀者諸氏の協力を俟つて完全なものとした。
スキー技術その他に就ては安川榮一、島林勇兩君から寄せられた資料に據つて執筆した。又、附録として影山寅造氏の「湖北山塊のスキー場」を掲載し、新しいツニアコース開拓の参考とした。
本叢書の發刊以來、他府縣に於ても本叢書に類似追従した刊行物の發行を見るやうになつたが、これは本叢書がその嚆矢であるだけに、ひそかな誇りと喜びとを感じる次第である。
尚以下續刊のものに就ても種々資料を寄せられんことを希望し、完璧なものを作り得るやう御協力願ひたい。



昭和十二年十二月

編者識

目次

スキーヤーのために

1	スキーの挿話	一
2	スキーヤーへの注意	九
A	スキーの術語	九
B	スキーの選定	一〇
C	スキー靴と服装	一一
D	スキーの穿き方	一四
E	スキーの手入れ	一六
F	スキーヤーの飲食物	一七
G	スキー用具の価格	一九
3	スキーの技術	二五
A	基本姿勢	二六



B	平地歩行	三六
C	キツクターン	三六
D	登行法	三六
E	階段登行法	三七
F	開脚登行法	三七
G	直滑降	三七
H	全制動滑降	三七
I	半制動滑降	三八
J	全制動廻轉	三八
K	半制動廻轉	三八
L	クリスチヤニア	三八
M	テレマーカー	三九
N	スケート滑走	三九
O	ジャンプターン	三九

P	倒れた場合	三〇
Q	ワックスに就て	三二
4	スキーツアー	三三
A	ツアーに対する準備	三四
B	ツアーの場合の隊員	三五
C	ツアーの携帶品	三七

スキー適地案内

1	伊吹山スキー場	四一
2	マキノスキー場	四三
3	奥マキノスキー場	四五
4	饗庭野スキー場	四九
5	朽木スキー場	五〇
6	比良スキー場	五一



(影撮氏郎俊木仁) 奥マキノノにて

附 録

7	多賀スキー場	五三
8	箱館山スキー場	五四
9	霊仙山スキー場	五五
10	大浦スキー場	五六
11	柳ヶ瀬スキー場	五七
12	赤子山スキー場	五七
13	長尾スキー場	五八
14	比叡山スキー場	五八
15	其他のスキー適地	五九
	湖北山塊のスキー場	六三

—奥マキノを中心として—



場一キスノキマ

影撮氏旭藤伊



場一キスノキマ

影撮船汽湖太



トール環循ノキマ奥
テツユヒ山風寒
影攝氏那俊木仁



場一キスノキマロ
影攝氏那俊木仁



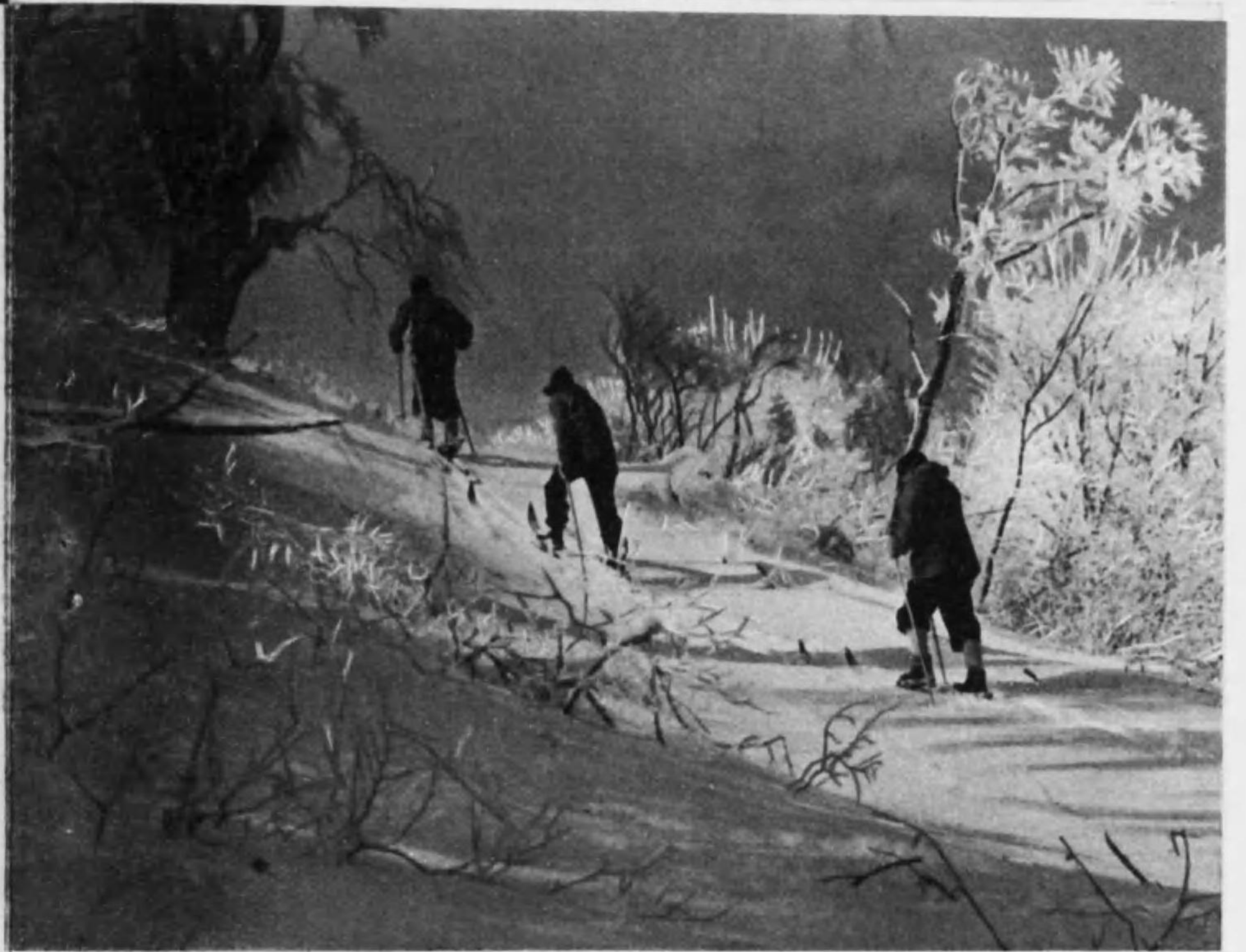
場一キヌ木朽
影撮氏郎俊木仁



場一キヌ木朽
影撮氏郎俊木仁

トール環循ノキマ奥

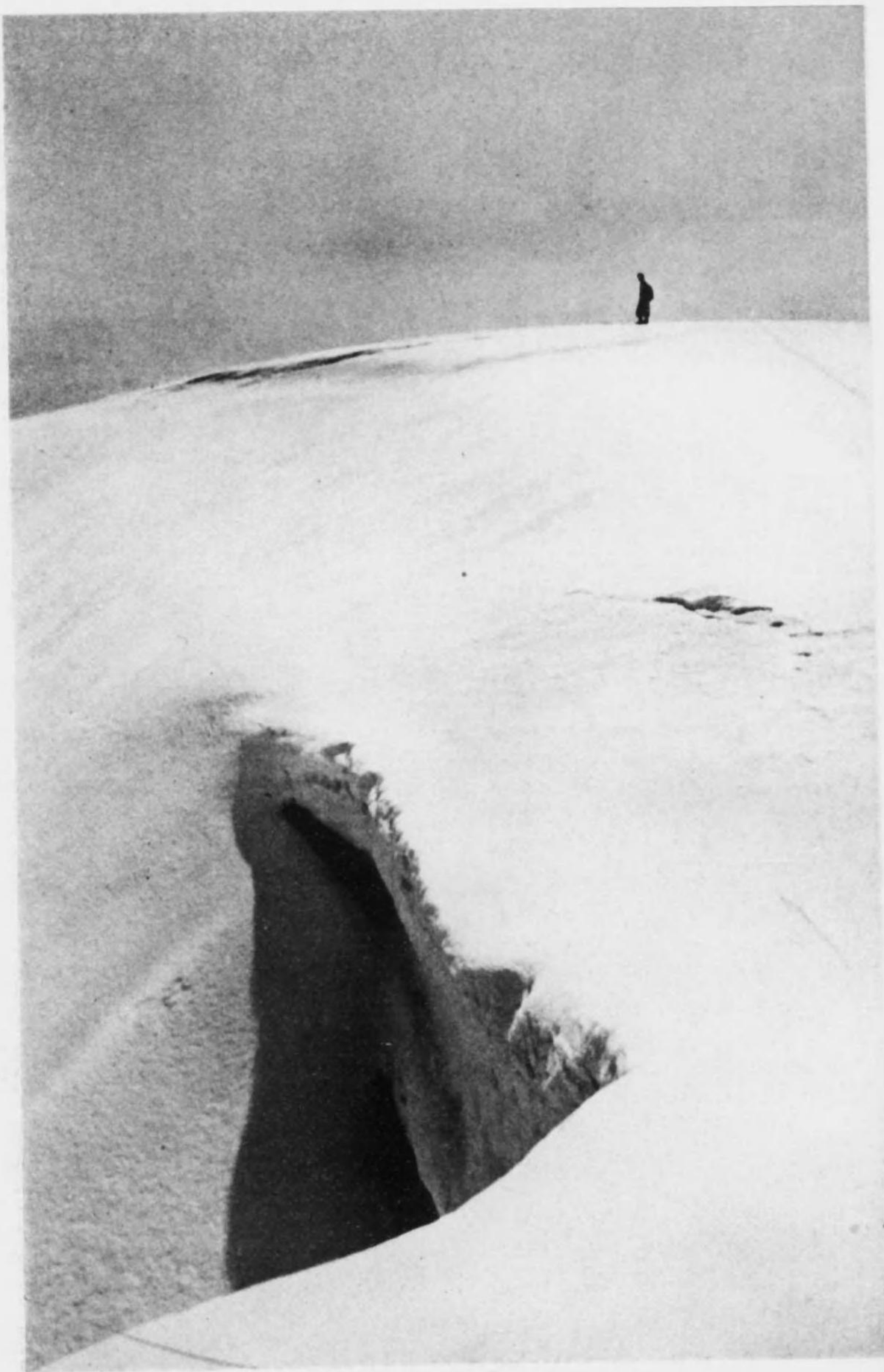
影攝船西湖太



場一キス良比

影攝氏郎太倉角

スキーヤーのために



奥ノキマにて

仁木俊郎氏撮影

スキートの挿話

冬の訪れを心待ちに待った山々は白銀に粧はれて美しく輝く。冬こそスキーヤー達にとつて、こよなく楽しい季節である。炬燵にもぐり込んで冬の寒さを怖れることは、何といつてもよくないことである。

音もなくやつて来た冬の沈黙を、真先に破るのは、待ち構へてゐたスキーヤー達である。元氣な息吹きによつて山々は潑濺とよみがへる。

風が止んで、雪が霽れる。底知れぬ銀色の静寂！音も色彩も、あらゆるものを吸ひつくして、ただ真白な雪が一面にふくらんでゐる。

「こんどはあのスロープ……」

指さす彼方のスロープ。雪煙りたてて突進する快感に、胸は躍り、血は渦をまいて全身を駆けめぐ

る。

「そらツ」滑る、滑る、まつしぐらに滑る。雪ばれの太陽の反射が、銀光に揺れて、樹が、雲が、心が走る。明るい雪の中に解放された身は總てのわづらはしさを忘れて、たゞ滑つてゆく。喜びの聲高く降る滑走のひと時こそスキーマの三昧境である。

大自然が與へてくれた愉悅の最高峰。スキーマーにとつて冬は憧憬の季節であり、雪は歡喜の贈物である。風を切り雪を碎く滑走の快感は永く心の想ひ出として強く印象づけられる。

たとへスキーマは上手でなくとも、雪と闘ふ心の喜びは何にもまして壯快なものである。幾百遍となく轉んでは起きる。そこにさへ悦びはある。老若男女誰れでもが親しめるスポーツであり、心身の鍛錬にこれ程有効なスポーツはない。

スキーマは決して遊戯ではない。冬の寒氣とたゞかひ、これを征服するのである。家の中にとち込つて寒さに慄えてゐる嚴冬の頃、肌を汗しつゝ雪の中を往く氣持は確かに自然を征服した優越感である。

蒼く晴れた空の下、足下に擴がる白豈々の嶺や谷を眺めては、冬の自然美の素晴しさに眼を瞠ることであらう。寒氣を衝いて雪路をゆくことは心の修養であり、身體の鍛錬である。従つて健康な人なら誰にでもやれるスポーツであるといふことが出来る。

ましてスキーマはスポーツとしてのみ考へられるものではなく、立派に國防上の効用をもつてゐるのである。

明治四十三年十二月。高田歩兵第五十八聯隊ではオーストリアのレルヒ小佐を招いて我國最初の軍隊式スキーマを初めたのである。即ちスキーマが國防上直接間接に役立つことを認めたからで、我國の三分の一以上は冬期雪にとち込められて活動が出来ず、これらの地方の徴兵率の悪いことは、間接的に國防上惡影響を及ぼすものだと思へられたからである。

「聯隊の各中隊から有爲の青年將校を十二人選定して研究を爲さしめた。當時のスキーマ術は塙國軍隊

式であり、一本杖でスキー装具は總て煉鐵製の發條式で、折敷でも伏姿でも自由にとれるやうになつてゐた。之を東京の砲兵工廠で大急ぎで二十挺造らせた。それは極めて堅牢精巧なものであつた。要するに、塙國式は軍隊用を目的とし、アルプスの冬期守備監視に騎兵の代りに使つたのであるから、その教育方法も頗る嚴重でスキーの穿き方でも杖の持ち方でも非常にやかましい。特に行進方法では反則者は嚴罰に處する位である。一例を挙げれば、杖を落せば禁足に處せられる。小便をするにも指揮者の許可を得て指示される側にするといふ位である」

以上はスキー隊の聯隊長だつた現陸軍中將堀内信水氏の當時の述懐である。

スキーをつけての行軍やスキー機關銃隊など如何にも颯爽たる勇姿である。皇軍將兵が現に北支の雪原に活躍しつゝあるのも既にしてかうした不斷の努力精進によつて培はれたものなのである。

「あらゆるスポーツのうちで、スキーほど壯快で、健康によく、且つ伸縮性のあるものはないと思ふ。私はやつと去年に初めたばかりであるが、もつと早く初めなかつた事を切に後悔してゐる。實は久しい以前からやりたいと思つてゐた所、四五年前に丁度私と同年輩の友人が初めたので、早速感想を聞くと、『中々面白いが、四十となつちや、ちと過激だね』といふ返辭だつた。私はそれをそのまま受入れたのだが、それが大變な失敗だつた」

探偵小説家甲賀三郎氏は「スキー禮讚」の言葉として、先づ氏自身の失敗談から始められる。つゞけて氏は云ふ。

「私に過激だと教へた友人は、彼自身が過激な事をしたのに相違ないのだ。誰でもスキーを初めたものは早く上手にならうとする。コーチヤも早く上達させようと思つて、どうしても無理をする。それが血氣の若者なら堪へられるが、中年のわれ／＼にはとても堪へられはしない。無理をしないで、つまり中年者は中年者のやうに、それ相當の事をしてゐればいゝので、山歩きをしようとか、競技に加はらうとか、ジャンプをしようとかいふやうな野心をすてゝ小さい丘を登つては滑つてゐればいゝ。

それだけでも、結構面白いものだ。若い人達にはいくらでも練習しなければならない技術があり、山歩きの壯快もある。之が前に述べた伸縮性で、スポーツとして、之位伸縮性のあるものは他にない。力相當の事をしてゐたら、決して過激ではなく、一人でも楽しめるし、技術が下手でも十分面白い」

氏の言葉は如何にもスキーのよさを如實に語られる。そして、又つゞけて氏は云ふ。

「スキーをやるのに金がかゝるやうに思はれてゐるのも、甚しい間違ひである。よく先輩がスキーとスキー靴位自分で持たなければといふが、それは持つに越した事はないが、うんと上手になつて、競技に加はつたり、山歩きでもしようといふのなら兎に角、ゲレンデで只滑つてゐる分には、借スキーでもいゝし、ゴム靴でも結構だ。現に雪國の小供など、ゴム靴で、簡単なスキーで、自由自在に滑走してゐる。早い話が、釣を初めようといふ人に、やれ釣竿は何十圓出さなければいけないとか、釣服が必要だとか、釣針は外國製に限るとか教へる先輩はあるまい。スキーに限つて最初から贅澤な品を勧めるのは可笑しい。度々いふ通り、山歩きをしようとか、軽業のやうな技術を會得しようといふやうな場合には、さうした必要もあるかも知れないが、一冬のうち、せいゝ二度か三度、週末を利用

して出かけようといふやうな初心者には、服装その他に金をかける事はないと思ふ」

まさに氏の云はれる通りである。スキーイングは決して贅澤な遊びであつてはならない。質實剛健なスポーツであり、心身の鍛錬に最も効果ある冬の運動である。なりふりを構つてスキーをやる位ならやめた方がいゝときへ云へよう。時は非常時である。寒氣と闘ひ心身を鍛錬することは、銃後の人として必要なことであらう。

さて、滋賀縣は關西に於てスキー場の豊富な土地であり、何れも僅かな時間と費用で行ける。しかも日本で唯一つのスキー船といふ情緒的な船があつて、夜、濱大津を出帆すれば翌朝早く海津に着く。又、湖西を走るガソリンカーも季節の間はスキーカーとなる。湖東、湖北方面のスキー場へも夫々汽車、電車、自動車と交通機關は整備され、スキーシーズンにはスキーヤーへのサービスを忘れない。

冬こそ、寒氣を衝いて雪原へ！ スキーの醍醐味を満喫するために……白銀の上に鮮かにシュプールの跡を印しつゝ、壯快なひと時を過すことを勧めたい。

今こそ、非常時局に當面し、スキー本来の指導精神を確立すべき最もよい機会といはなければならぬ。國を擧げて國民精神の總動員が實施され、國民の體位向上の高唱せられる時、素朴な雪の曠野と山地とは心身鍛錬に最も適應した自然の道場である。スキーこそ、そのために活用されるべきものでなければならぬ。

スキーヤーへの注意

これからスキーを初めやうとする人々のために、一通りの常識を述べておくことも必要であらう。

スキーの術語

先づ、スキーとその附屬品に就ての術語を解説すれば、

ベント 普通、スキーの先の曲つた部分をいふ。

テール スキーの「尾」のことである。

エツヂ スキーの「角」のことで、内側の角を「内側エツヂ」外側を「外側エツヂ」といひ、又山側のエツヂを「山側エツヂ」、谷側のエツヂを「谷側エツヂ」といふ。エツヂをつける技術を「エツヂング」といひ、即ち角づけすることである。

バッケン 耳金のことで、スキー靴を固定させる金具のことである。

ビンディング 縮皮のことでバックケンと共に靴をスキーに密着させる用具のことである。
ストツク 云ふまでもなく、両手にもつ杖のことである。
シール 登りに使ふアザランの皮で貼り付け式と取付式とがある。
ワツクス スキーの裏に塗る蠟のことで、登り用と降り用とがある。後述参照

スキーの選定

さて、スキーであるが、これは何といつても第一に考へなければならぬ。勿論貸スキーを穿いて滑つたとて一向差支ないし、そんな理想的なスキーを求めなければスキーイングが出来ない筈もない。だが、次第に自分用の、しかもびつたりとくるスキーが欲しくなるのがスキーヤーの人情である。

我國でスキーが初められた頃には高田のスキー聯隊で、壯丁の平均身長から割出して六尺四寸(約二米)のスキーを標準としたさうであるが、自身に適するものを選ぶとしたら、スキーを垂直に立

て、片腕をのばして其尖端が握れる程度の長さが適當である。

幅は長さが六尺四寸のものならば、尖端^{ヘッド}三寸、中央二寸三分五厘、後端^{テール}二寸六分五厘が標準とされる。ゲレンデで滑つてゐる位の初歩の人は中央の幅が少し狭いものがよい。それは操縦がし易いからである。幅が廣すぎると、スキーが傾斜した場合、正位置に戻すのに手間取れるし、傾面を横に歩く時、スキーのエツチが遠いためエツチングがしにくく、疲れることが多い。

其他、スキーの厚さ、底面、反りなどに就ても色々條件があるわけだが、それらのことは先輩の言葉に従ふなり、自身の経験によつて考へ出すべきである。たゞ無暗に用具ばかりに凝つたところで、決してスキーは上手になれるものではない。次第に技術の進歩に従つて、夫ぞれの用具に對する鑑識眼も出來てくるものである。

スキー靴と服装

次に靴であるが、これは是非水の浸み透らないものを用ひなければならぬ。スキー靴として市販

されてゐるものを用ひるのが一番いゝのではあるが、別にさうでなければならぬと云ふわけではない。たゞ、底が濡つてゐるために中央から折れ曲つてスキーが脱げるやうな靴では困るし、水が浸み透つて凍傷を起すやうな靴であつてはいけないといふ意味である。きつちりの靴は靴づれや凍傷を招き易いから、普通の靴よりは大きめのものがよい。即ち毛の靴下を二枚穿き、上に木綿の靴下一枚穿ける程度の餘裕があるのがよい。

スキーを初める人はスキーの次に靴に対する注意を怠つてはいけない。雪の中で濡れたのが乾いて革が固くなると、必ず靴づれが出来たり凍傷を起したりする。革が固くならないやうに鯨油とか馬油などの保革油を塗り、常に革を軟くして置くことが必要である。

スキーは何も服装で滑るものではない。スキーは金がかゝるといふ非難の大部分は、この服装に金をかける人を指して云はれる言葉である。決して贅澤な服装を整へることはいらぬ。廢物の帽子や洋服を箆筒の隅から引つぱり出して、それを利用して工夫する方が却つてスキー服として適はしいものが出来るものである。

ただスキーイングをするのに不自由な服装であつては、折角の愉しみも本當に味ふことが出来ないし、又思はぬ災厄に遭ふこともある。要するに雪に對して萬全の用意は心掛けなければならない。

まづ帽子は晴天の時ならいらぬときへ云へるが、吹雪や寒さの厳しい時には耳と頬とを包めるやうな帽子が適當である。羅紗の織目のつんだものが雪に對してもいゝし、防寒の意味からも効果的である。上衣は防水布でつくつたものが最もいゝが、サージ類も雪がべたつかすいゝ。毛糸のスウェーターは雪がべたつくし、乾かないので禁物である。吹雪の時など風が通り毛糸に雪がついて困る。

大體上衣は少しゆつくりしたものがよく、寒い時には下に多く着られるやうにしておくことが必要である。襟は折り襟でもいゝが、出来れば襟を立て、耳までかぶさるやうに出来てゐれば更に結構である。

ズボンは男女共に必要である。サージ類のやうな織目のつんだ羅紗地がよい。これも運動が妨げられないやうに少しゆつくり造つておかなければならぬ。婦人の服装も大體男子に準じたものでよいが、たゞスカートは不適當である。ズボンには股の處にマチを入れ前後左右大股に踏んばれるやうにする

ことが必要である。

肌着は毛の薄地のシャツならば、汗が出て早く乾くので最もよい。木綿のシャツは汗の出た時に乾きが遅いので困る。勿論着換へを持つて行ければいゝのであるが、肌着の上にスウェーターを胴着として着るとよい。

手袋は軍手でもいゝが、それに腕まで入る長手袋を用意するとよい。毛の手袋なら防寒に大變役立つ。初めてのスキーヤーは特に轉る度数が多いから、その度に手を雪に突きさすので、袖口から雪の入らないやうな装置を上衣に造るか、長手袋を用ひるとよい。

日除の雪眼鏡は伊達ではなく、晴天の時は用意しておくべきである。雪に反射する日光はどんなに眼のよい人でも非常な刺激を與へるからである。殊に早春の雪に陽が當つた時は反射が一層きつく夜になると眼が痛んで涙が出て堪へられない。

スキーの穿き方

スキーを穿くことが先づ第一に必要なことは云ふまでもない。スキーを穿くには一方の靴先を

耳金パッケンの中に入れ、靴の中心線が常にスキーの中心線と一致するやうに耳金を取りつけて置き、縮皮を踵部外側の所でびつたり締めつける。成べく平地で、スキーの上に折敷の姿勢で交互に穿くのが樂である。斜面で穿く時には一方のスキーを雪に立てゝおき、他のスキーを傾斜線に直角水平にして置いてから足を乗せる。さうしないとスキーが滑り出して穿くのに、骨が折れる。穿きそこなつて、スキーを谷に落してしまふやうなこともあるから、必ず一方を穿いてから他方を穿くやうにする。

スキーを脱ぐには縮皮をゆるめ後皮をはずす。矢張り折敷の姿勢である。勿論、慣れれば着脱ともに腰をかゞめて自由にやることが出来るやうになる。

次にスキーの置き方であるが、無闇に置くことはスキーを傷めるから注意しなければならぬ。常にスキーは先端ペイントを下に向けて倒れぬやう立てなければならぬ。よく反對にテールを雪の中に突きさしてゐる人があるが、これはスキーを傷めるから避けるべきである。

尙、スキーを運ぶには短距離なら脇にかゝへて行き、重くなつたら左右交互に持ち變へるなり、兩杖ツツでスキーの先を支へて兩脇で運ぶなりする。又、汽車とか電車で持つてゆく場合は結束しなければ

ならない。

スキーマの手入

スキーマにとってスキーマ程大切なものはない。スキーマ上達にはまづ、スキーマの手入を完全にすることが必須条件とされる。スキーマを大切に取扱つてやらねばスキーマとしての資格がなくなるとさへ云へるのである。

新しいスキーマは必ず使用する数日前から、木部に亞麻仁油か、亞麻油を煮たて、浸透させ、日蔭で乾かす。すつかり乾くまでには三日位かゝるが、これを何度も繰返してゐると最後には表へ蠟のやうな油の層が出来る。かうなれば油が内部迄浸み込んだのであるから、表面の油を拭つて乾いた布で熱くなるまで摩擦する。かうして使用すると木部の強さを増し、滑りがよく雪がつかない。

使用後のスキーマは雪をすつかり落とし、乾いた布で拭き、火の傍には置かないやうにする。シーズンが終つて格納する時には、木部をよく拭き、前述の新しいスキーマを使用する場合と同じやうな手入を

し、保存木を入れて型を整へ結束して風通しのよい濕氣のない所へ入れて置かなければならぬ。又スキーマは概して烈しく使用してゐる時には狂ひが少ないが、格納して置いて一夏を過すと、保存の悪いものは狂ひ易いから注意しなければならない。

スキーマの飲食物

スキーマに行く人々にとって、その準備の一つとして忘れてならないのは、スキーマ場へ持つて行く飲食物に就ての注意である。雪の上を滑つた後で食べるものは何がおいしいか、どんなものが身體の疲れを醫やしてくれるかを一通り知つておけば、大變便利であらう。勿論人各々によつて嗜好も違ふであらうが、大體スキーマとしての經驗から割り出した飲食物といふものには標準がある。

まづ、果物であるが、林檎は必ず持つて行きたい。それは咽喉がかはいた時に、水を飲むのと同じやうに美味しい。密柑も林檎と同様である。その他、レモンも疲れた時になめると疲れがなほるし、寒さに耐へる効果もある。又、四五人でパーティを作つて、スキーマ場へ行くやうな時にはバイナツ

ブルの罐詰などもいゝ。

次に主食物であるが、一番いゝのは切餅を焼いて醤油をつけ海苔を巻いたのを持って行くと、硬くもならず、腹も相當ふくれていゝ。握り飯に梅干も結構であるが、寒氣のひどい時は、それを食べて尙寒くなる欠點がある。冷たいので身體中が冷えてしまふのである。尤も天氣のよく晴れた日、汗にほてつた時、冷たい握り飯を頬ばるのは、たしかに美味しい。それに推奨したいのは、きつね壽司である。これは油があるため飯が凍らないし、お茶がなくても食べられる特長がある。パンも主食物として適當であるが、矢張り日本人はパンだけでは頼りないであらう。サンドウィッチにしてパンを持つて行くのは重量の點から云へば軽くていゝ。パンも出来るだけバターなりチーズを澤山つけて食べると相當腹もふくれるし、寒さに耐へることもなる。

尙、飲み物は紅茶、コーヒーを魔法壺に入れて持つて行きたい。砂糖を幾分普通よりは澤山入れて沸したものがいゝ。温い紅茶を飲むことは疲れを休めてくれるし、寒さを防いでくれる。場合に依つ

てはコッフェルで沸かして飲むのもよい。紅茶、コーヒーの他にコ、アやチョコレートも美味い。

それは糖分を要求するため、氷砂糖や板チョコを持つて行くのもそのためである。

疲れた時にチーズやバターをなめるのも効果的である。又貝柱の乾したのはかさばらぬし、長い間嚙んでゐられていゝ。

要するに、スキーは相當身體を使ふ運動であるから、腹も空るし、疲れもくる。それに適はしい飲食物を要求するのは當然である。

そこで以上ほんの心づいたまゝを述べたのであるが、スキーヤーが夫々考へて、自分の嗜好にも合ひ、しかも効果的なものを選んで準備して行くことを勧める。尙、普通の一食分では足りないものであるから、その點も注意しなければならぬし、ツアをする場合には少くとも二人分の食糧をリュックに入れて行かなければならない。

スキー用具の價格



方ち持のクツトス
(1-2-3-4)



勢姿本基

最後にスキーを初める人に、スキーの値段その他を一寸述べておかう。
 勿論前に述べたやうに、スキーは何も自分用のものを是非必要とするわけではないが、次第に上達するに従つて、自分用のものが欲しくなるし、靴や服装も或程度整へたくなるものである。そこで初めての前にはスキーとストックを、翌年には靴を、その又次の年には服装をといふ工合に揃へて行くことは決して贅澤ではないと思ふ。
 今年の標準価格を調べてみると、大人用のもので、スキーは縮具、ストック付のものが最低九圓から三十圓位まで。スキー靴は七圓位から二十一、三圓位まで。服装は上、下で八圓から二十圓位までである。



換轉向方るけ於に面斜



行步地平



法行登段階



法行登脚開



全制動迴轉



スキートの技術

スキートを穿いて平地に立つて歩く……たゞそれだけのことでも初心者には難しいことであり、これがあらゆるスキート技術の基礎となることを思へば、平地歩行といふことは軽々しく考へられない。足とスキートと雪とが親しむまで練習し、そして後、斜面の練習に移るべきである。轉んだからといって恥しがるやうでは決してスキートは上達しない。體裁を構つたりしたら、決して滑れるものではない。虚心坦懐、邪念を去つて、たゞ雪に馴染むことがスキート上達の秘訣である。大膽に滑れ、そして練習を積み。これがスキーターにとつての鐵則である。

次に近代スキート技術の優秀を誇るオーストリアのスキート學校のアントン・シーロスが最も簡單、しかも要を得た解説を試みてゐるので、それを翻譯して、スキート技術の紹介をすると共にこれからスキートを初めやうとする人々の参考としよう。

基本姿勢

スキーを揃へて真直に並べ、スキーの上に足を乗せ膝と腕とを少し曲げて、ストックは後方に保持する。

26

平地歩行

スキーを並べ、上げることなく滑らせる。前方のスキーに重味をかけ、スキーの間をくつ、けながら後方のスキーを前方にひき出す。ストックをビンディングの丁度前方に突く。右足のスキーの場合には左のストックを動かし、左足のスキーの場合には右のストックを動かす。

斜面に於ける方向轉換 (キックターン)

スキーが斜面に對して横向きの場合には、上方のスキーを前方に蹴上げ、下方のスキーと反對の向きに置く。そして、下方のスキーを持ち上げ最初のスキーと並べて置く。ストックの位置に注意のこと。

登行法

スキーを持ち上げ、強く踏みつける。斜めに登る時にはスキーの山側エッジに重味をかける。

階段登行法

スキーを斜面と横向きに置き、上方のスキーを持ち上げて上に置く。そして、下方のスキーを山側エッジを使ひながら上方のスキーの横に置き、これを繰返しつゝ登る。

開脚登行法

スキーの前方を広く開き、後方はくつつけて、内側エッジを使ひながら真直ぐに登る。

直滑降

スキーを揃へて兩方のスキーに等分に體重をかけ、膝を前方に折り曲げ、手は腰に保持し、ストックは後方に垂れる。

全制動滑降

スキーの前方を接近させ、後方は広く開き、膝を軽く曲げ、體重は平等にかける。スキーは平踏みとして、どつしりと構へる。

半制動滑降

これは斜滑降の時とか、緩斜面に於ける直滑降の場合に使ふもので、正規の位置から下方の

27

スキーのテールを押し開き、その先は上のスキーと接近させ、少し前に出す。上方のスキーに体重をかけること。

全制動廻轉 (フルーク ボーゲン)

全制動滑降から初めるもので、体重を片方のスキーにかけ、そのスキーを少し前に出す。身体を外側にもたれ、肩を前方に振る！ 腕とストックは通常的位置に保持する。

半制動廻轉 (ステム ボーゲン)

最も重要な廻轉法である。斜滑降から初める。下方のスキーを半制動の位置に出し、それに体重をかけ、上方のスキーを平らにして外方に押し開く。外側のスキーが最大傾斜面を少し過ぎた時、内側のスキーから体重をこのスキーに移し、廻轉が終るまで重みを加へる。外側のスキーに内側スキーを除々に寄せる。

廻轉 (ステム クリスチャニア)

急斜面の方向轉換に於て最も確實、最も迅速な方法である。ステムの廻轉であるから、先づ外足の体重を抜いて(この瞬間、体重は内足にある)、次にこのスキーを外に振り出す。身体を

圓く振り、再び外側のスキーに加重する。体重は前方に！ 内側スキーを前方にひきつける。

テレマーク廻轉

重い雪とか皮のはつた雪での廻轉法である。スキーを揃へて平踏みにして滑る。外側のスキーを、スキーの長さの四分ノ一程前にやり、内側の方向に身体を捻り曲げる。内側のスキーの先は外側スキーの踵のところについてくる。後足の踵はスキーから離れる。

スケート滑走

これは緩斜面で使用するものである。片方のスキーに重味をかけ、他のスキーを持ち上げ、そのスキーの先を斜め前方に押し出し、それに重味を移し、そのスキーで滑る、次に他方のスキーを同様にする。即ちスケートと同じ滑り方である。

ジャンプターン

重い雪の場合の回轉方法で、まづスキーを揃へてから初める。下方のストックを持ち上げ、下のスキーの前方に突きさす。体重をそのストックにかけ、ストックを中心として飛び上り回轉し、軽く着陸する。

倒れた場合

轉ぶことを恥しがつたり怖れたりしてはいけない。然し出来るだけ轉はぬやうに注意すべきで、止むを得ない時は身體や手足から力を抜いてグニヤリと山側にねるがよい。倒れて頭が谷側(斜面の下方)に行つたなら、出来る丈け身體を伸ばし仰向けになつて脚を擧げるか、腹ばひになつて膝を曲げるかしてスキーを空に浮かし、其繩れをとぎ、雪面に掌又は肘をつけて身體を廻し、スキーを谷側に送つて横臥し、兩スキーを並行に置く、更に膝を胸に近づけ、腕で身體を押し上げるのである。此時杖を使ふなら杖を雪上に横に置き其中央に手をついて起き上る。

次にスキーに使用するワックスに就ての常識を掲げる。

滑降用蠟

獨逸メルク會社製の軟質パラフィン(融解點三八度乃至四二度)が最もよいやうである。先づスキー滑面の水分を拭ひ去つて、アイロン又はパラを適度に熱し、蠟を溶かしながらスキーの尖端からテールの方へ流し、更にアイロン等で之を平らに延し、布片でよく磨いて、てらく

光るやうにし、三十分以上冷所に放置する。スキーの溝や側面につけてはいけない。

登降用蠟

スキー滑走といつてもスキーの木部で滑るのではない。スキーと雪との間にはワックスがあるといはれてゐる。色々の蠟があるが、我國で最も多く使はれてゐるのは諾威のオストビウ會社製のワックスである。

水氣のない粉雪即ち手に握つても固まらない雪にはミックスがよい。水分の多い降りたての雪、即ち手に握ると固まる雪にはメデウムがよく、手に握れば水滴が落ちる位の雪にはクリスタ、春先に多いザラメ雪にはスカレがよい。

塗蠟法の研究は最近著しく進歩してゐるが、詳細はその場、その場合に從つて、研究すべきであるが、ただ各種のワックスを使ひ迷ふよりは同一系統のものを少數使ひにこなす方がよいと思ふ。

スキーツーア

ゲレンデスキーからスキーツーアへ……それはスキヤーの憧れである。練習場で習得したスキー技術を生かすには山へツーアを試みてこそ、その楽しみが味はへる。

見はるかす限り純白な曠野をゆき、山地を辿るスキーの旅、努力の汗を寒風に拭ひながら神々しいまでに白く輝く山の姿を求めてゆくスキーツーア。吹雪も寒気も怖れることなくスキーに身を托して山野を跋涉するスキーハイキングこそ、冬の野山の崇高美を満喫することの出来る雄壯な旅であらう。

勿論冬の自然は幾多の障害をもつて旅人を苦しめる。従つてスキーツーアを試みるには周到な準備を怠つてはならない。徒に危険を冒して行くことは決して勇氣のある人のやることではない。飽くまで周到な注意を拂つて準備し、萬全を期して行くことが本當に勇氣のある人だと云へよう。スキーが

實用的に利用されることの益々盛んになつて來た現在、たゞ練習場で滑つてゐることから一步進めて旅へと飛躍することの愉快をスキヤー達にすゝめたい。

スキヤーにとつて最も困難であると同時に最も愉快なものはスキーツーアである。ゲレンデで習得した技術を實際に應用することの出来るのもスキーツーアである。平穩な水面で舟を操縦してゐる人が、波や流れのある水面に出てみたくなるのと同様である。少しの危険にぶつかつたからとて舟を捨て、歸ることは出来ない。そこに冒険と共に面白さが加はる。スリルを求めて山へスキーツーアを試みることは、所謂變化を求める心である。

たゞ繰り返して云ふやうに無謀なツーアには必ず危険が伴ふことを知らねばならぬ。如何に熟練家でも冬の間々を登りゆくことには或程度の危険がある。無理をしてはいけない。飽くまで慎重に準備し、同行の人々とは協力一致しなければならぬ。かくてこそスキーツーアによる心身の鍛錬は何物にも代へられぬ程の効果を齎らしてくれるのである。

ツアアに対する準備

夏山の登山でさへ準備が不充分であつた爲に思はぬ失敗をし、危険な状態に陥入つたり、不愉快な旅をつゞけねばならぬことがある。まして、冬山は一層種々な危険があることは云ふまでもない。従つて準備に最善を盡さねばならない。

まづ目的地は、なるべく夏の時分に踏査したところのある土地を選ぶことが必要である。若し踏査したところのないところだつたら、夏の中に一度歩いてみて、その地形や斜面の状態を研究し、地元の人々に就いて一通り冬の様子を尋ねておくべきである。そして地圖について冬でも目標になるやうな物を特に記入し、距離も大略測定しておかなければならぬ。

次には必ずよい案内人と人夫を備ふことが必要である。二日以上のアアだつたらキャンプの場合や萬一の場合を考慮して是非共案内人や人夫の手助けを得なければならぬ。尤も山岳通でありスキーの熟練者ばかりでのツアアなら不必要かも知れないが、山に慣れない人は食糧の運搬その他だけで

も案内人について貰ふ必要がある。

最後に出発前に身體の具合に注意しなければならない。身體の何處かに故障のあるやうな場合には同行者に迷惑をかけることになるから中止すべきである。携帯品や服装などには細心の注意を拂ひ、スキーは折損の虞れのないものを持つて行かねばならぬ。服装は防寒に充分役立つやう、しかも重量の餘り重くならぬやう肌に當るものは必ず毛のものを用ひるやうにすべきである。食糧は前にも述べたやうに、ツアアの場合には一人で二人分位持つて行くことが必要である。

ツアアの場合の隊員

スキーツアアは冬山、特に雪山の旅である。幾度も云ふ通り種々の障害があるのだから、單獨行爲はまづ慎しむべきである。必ず同行者を伴つて旅をつゞけるべきで、隊員が協力して自然と闘ひ白雪の山頂に達することこそスキーツアアの悦びである。この協力一致の精神を養ふためにも隊をくんで行くことが必要なのである。

特に吹雪に襲はれたりした場合單獨では危険である。悲しむべき遭難は無謀な單獨行爲によつて多

く惹起されるのである。

隊員は餘り多すぎてもよくないが、大體四五人から七八人位が最もよいであらう。比較的危険の少ないコースだつたら熟練者一名に慣れない人三名位の割合で行くのがいい、人数が餘り多すぎると、危険な場所を通過する時など隊形が長くなり時間がかゝるので、どうしても危険率が多くなる。

吹雪に眼の前は一寸先も見えない。そんな時、大きな聲でお互に自分の所在を知らせ合ふにも餘り大勢では困る。勿論、多人数の場合には隊を何班かに分け、一班毎に必ず熟練者を班長としなければならぬ。即ち、隊員の中で最も経験ある人をリーダーとし、總てその人の指揮に従ひ決して自由行動をとらぬやう戒め合はねばならない。

そして、隊形を整へ、先頭には體力の強い経験者をおき、後尾にはスキーの熟練者をおき、その中間に比較的経験の少ない人を挟んで行くやうにせねばならぬ。又、隊員の行進は最も弱い人を標準として速度を加減し、時間の豫算もこれによつて立てねばならない。

ツニアの携帶品

山地をゆくスキーツニアには餘り重量の多い携帶品は避けるべきで、各人の體質にもよるが普通四貫位がよく、重くも五貫目以上を越えては苦しくなる。出来るだけ必要なものだけを携帶して行くやうにしなければならぬ。

リュックサックを脊に山野をスキーで旅するのであるから、その荷物は出来るだけ軽いことが条件とされる。必要品としてはスキーの他に小修理具、靴下、手袋、襟巻、油紙、新聞紙、シャツ、スウエーター、雪眼鏡、地圖、磁石、懐中電燈、蠟燭、マッチ、呼子笛、懐爐と灰、繻帶、絆創膏、ロップ、水呑等がある。又食糧は前に述べたので省略する。

以上、スキーツニアに就ての注意を略述したわけであるが、冬山への憧憬を満足させるためにはスキーツニアによるより他はない。壯大な山の神秘を身を以て體驗するためにスキーヤーは充分な準備と細心な注意をもつてツニアに出られることをおすゝめする次第である。

又キ一適地案内

1. 伊吹山スキー場

交通

東海道線近江長岡驛下車、山麓まで四軒。バスの便がある。

關西に於けるスキー場の矯矢といはれ、昭和十二年には全日本スキー選手権大會の會場に選ばれた全国的にも有数なスキー場である。中腹には最も好ましいスロープがあり、緩急思ふ存分の斜面がとれる優秀スキー場である。しかも伊吹山は標高一三二七米、本縣の最高峰であり、日本武尊の傳説に彩られた物語の地である。

一合目は初心者に絶好なゲレンデであり、経験者にはよきテクニツクの練習場である。そして、三合目以上こそは大伊吹の價値を如實に發揮してゐるのであつて、五合目邊りまで登れば、そこは一大銀盤、あたかも心あるレーロイファーにシュプールを印して貫ふのを待つてゐるかの如く、麓の方へ大きく擴がつてゐる。それは信越地方のスキー場に優るとも劣らぬ雄大なスロープである。即ち、本スキー場は初心者にも熟練者にも向く絶好のものであるといふことが出来る。

しかも、設備は最も古い歴史をもつだけに最も完備してゐるといふべく、一合目には二十數軒のヒユツテがあり、二合目にも二軒、三合目にも二軒の山小屋があり、頂上にさへ三軒のヒユツテが建つてゐて、宿泊、賣店の施設が完備してゐる。尙ツアコースも自由にとれること勿論、近くの山々へのツアを开拓することの興味も残されてゐる。

京阪神並に名古屋方面から省線を利用すれば僅かな費用と時間で到達することが出来る。

山麓には「伊吹のさしもぐさ」で有名な藥草を投じた藥湯があり、スキーに疲れた身體を暖ためることも出来る。

天候のよい時、伊吹の山頂を極め、脚下にひろがる太湖の風景を眺めたなら、正にワンダフルの一語に盡きるであらう。兎も角、關西スキー場の始祖たるの貫録はいまに失はずスキーヤーの憧れを一身にあつめた靈峰伊吹の聖姿に接すべきである。

2. マキノスキー場

交通

太湖汽船海津港上陸バスにて口牧野へ、又は江若鐵道今津驛下車バスにて口牧野まで

日本に唯一つのスキー船に乗つて濱大津港を夜半十二時に出發すれば、翌朝三時には湖北の港海津港に着き、そこからバスで二十分、口牧野へ着く。又ガソリンカー江若線によれば濱大津から一時間二十分で今津驛着、バスは三十分で口牧野に至る。水陸どちらのコースをとつても夫々の情緒があり、便利であることは全国のスキー場でも稀な程である。

さて、マキノスキー場の名は余りにも有名であるが、こゝは廣袤三十萬坪のスキー天國、雪質、積雪量共に既に定評があり、その規模の雄大、設備の完備はスキーを楽しむあらゆる人々に迎へられる。向きは東北に、緩急各種のスロープがあり、一軒の直線コースが隨所にとれる素晴らしさ。

第一ゲレンデは平地から五度乃至十度位の傾斜で初心者又は婦人子供に好適であり、収容力は約千

五百人位である。第二ゲレンデは五度から三十五度位のスロープをもち、熟練者に好適で、収容力は約七百人、第三ゲレンデは一〇度から五〇度位の傾斜で、収容力は約百人、シヤンツェも完備してあらゆるスキー技術が發揮できる。

山小屋は口牧野（第一、第二ゲレンデ）に十四棟あり、収容人員は二千入、何れも安價で温い飲食物を提供してゐるし、貸スキーの優秀なものも數百臺あつて、これ又廉價で賃貸をしてゐるから、初心者には貸スキーで練習することが出来る。

旅館は一泊三食付一圓三十錢位、一般民家ならば一泊一圓程度である。

云ふまでもなく初心者といはず熟練者といはず、スキーを楽しむ人々のために開放されたスキー場であり、第一、第二、第三のゲレンデは次々に連続し、技術の上達に従つて種々なコースの變化を求めることが出来る特徴がある。しかも琵琶湖の北端、湖國風景の特異な姿を横たへて、スキーヤーの眼はその絶佳な自然美に驚異の聲を放たずにはゐられないであらう。

3. 奥マキノスキー場

交通

マキノスキー場より約二軒にして赤坂山へ、こゝが所謂奥マキノのゲレンデである。徒歩約三十分。

關西に稀な山岳スキーのエベレスト「奥マキノ」は實に數百萬坪の廣大な地域を擁してスキーヤーの來訪を待つてゐる。江若二境に君臨し、北に日本海を、南に琵琶湖を俯瞰する雪の王座境である。

奥マキノ連峰の第一王座赤坂山は口マキノ（マキノ第一ゲレンデ）より約四軒ばかり登つたところ、本協會が建設したヒュツテ「赤坂」を中心に恰好なスロープが擴つてゐる。この附近には山小屋が二棟あり優に五百人を收容することが出来る。

赤坂山を経て寒風ヒュツテへ、次いでマキノ第三ゲレンデに至る奥マキノ循環ツアコースは本協會指定の優秀ルートで、それには鐵製旗の指導標が完備し、スキーツアを試みる人々に便宜を與へてゐる。

赤阪から寒風山へ至るコースは正にスキーツーアの快味を満喫する尾根傳ひで、
何らの危険なく行へるのである。寒風ヒュツテに一休みして再びマキノの第三ゲレンデへのコースも亦捨て難い興味に満ちてゐる。

奥マキノ一帯は積雪も豊富で、冬期は一丈餘を越へ、春三月末でも三尺は下らない。しかも雪質は良好であり、赤阪、三國のスロープでは二籽位の直線コースがとれる。

樹氷咲くブナ林の蔭を貫き、雪庇の上をねつて往く奥マキノ一帯のスキーツーアこそ、山岳スキーに憧れる人々の渴を醫やすに充分な條件を備へてゐるといへよう。

次に、奥マキノ循環ルートのコースとスケジュールを掲げて参考としよう。尙、附近の山々を踏破しやうとする人々のためには巻末に「湖北山塊のスキー場」を附録とした。これによつて白銀の處女地を開拓されんことをすゝめる。

コース

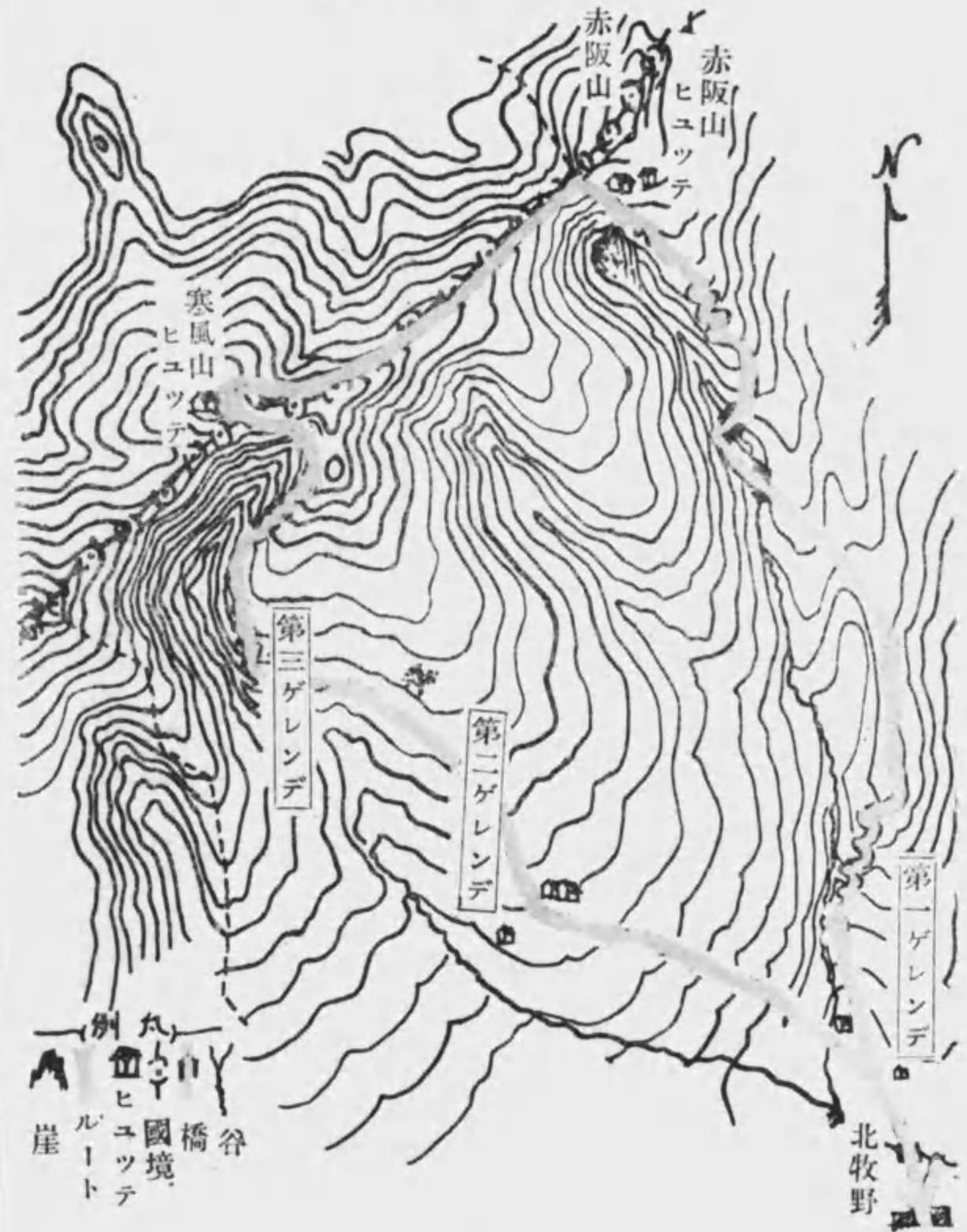
マキノ第一ゲレンデ―四〇丁上り―奥マキノ赤阪山―西走二〇丁―寒風山―四〇丁下り―マキノ第三ゲレンデ―第二ゲレンデ―第一ゲレンデ

スケジュール

一般スキーヤーを標準とした一例

(午前六時)スキー船出發―バスにて―(午前六時三〇分)マキノスキー場入口―(午前七時)マキノ第一ゲレンデ赤阪道登り口―(午前九時)奥マキノ赤阪山ヒュツテ―三時間練習並食事―(午後零時)同所發―(午後二時半)寒風山ヒュツテ―三〇分小憩―(午後三時)同所發―(午後三時四〇分)マキノ第三ゲレンデ―第二、第一ゲレンデを経て―(午後四時二〇分)バスのりば―(午後五時)スキー船歸着。

奥マキノ循環ツアー・ルート
略 圖



4. 饗庭野スキー場

交通 江若鐵道今津驛下車、西北約三軒、徒歩三十分。バスの便がある。

饗庭野は陸軍演習地として名高い所、その面積は廣漠たるものであるが、スキー場はその平野の一部を利用したもので、重要スロープは十四五度乃至二十度、東北に面し、斜面の裾は饗庭野平原につづき何ら障害物なく、好適なスキー場である。

今津驛からの道はスキーを着けたまゝでも登れる程のよい路である。高原に立てば東は太湖を隔て湖東彦根の白壁の城も望まれ、北西は若狭連峰を仰ぎ、東北には竹生島が青い湖水にぼつかりと浮んでゐる。いかにもなごやかな湖國風景が展開される。

斜面は初心者、婦女子向であり、例年女子スキー大会が開催されるのも當然と領れる。

設備としてはヒユツテ一棟があり、賣店や貸スキーの設備がある。本スキー場の特徴は饗庭野平原の廣大なる地域に自由に滑走を試みられる點である。即ち、スキー場施設は饗庭野の一小部分である

が、場外至るところ大自然のスキー適地でスロープの選擇も自由自在であり、歸路今津驛附近まで滑降り得られることも嬉しい。

5. 朽木スキー場

交通

江若鐵道安曇驛下車八軒。バスにて約四十分。

安曇驛から自動車で安曇川に沿ひつゝ雪路八軒ばかりをゆけば、多角的な山岳美と積雪量の豊富さと、そしてスロープの妙を誇る朽木スキー場に達する。面積十數萬坪、スロープは緩急變化の妙があり、伊吹山に匹敵するものがある。山岳スキーの豪快味とゲレンデスキーの輕快味とを共に味はへるスキー場として湖西にその名を謳はれてゐる。

西ヒユツテの西部に接して約六千坪のゲレンデがあり、緩急自在のコースに富み、變化あるスロープを有してゐる。生水阪口から西ヒユツテへ、西ヒユツテから東ヒユツテへ、そして其處から歸路二十分で荒川橋畔即ち赤阪口へ出る。コースはスキーツーアコースとして興味深いものがある。

積雪は三尺から六尺、三月下旬でも滑ることが出來、雪質もよい。設備としては東ヒユツテ、西ヒユツテの二棟があり、賣店、貸スキーもあつて便利である。宿泊施設としては地元の民家が一泊三食付八十錢程度で親切に世話してくれる。所謂西江州の野趣に富んだ味ひをもつ家庭的なサービスはスキーヤーの心を暖く包んでくれるであらう。

6. 比良スキー場

交通

江若鐵道比良口驛、近江木戸驛より登山路あり、山岳スキー場として名がある。

スキー場としての比良連峰は標高一七四米の蓬萊山にまで及び、その面積數十萬坪、積雪量は豊富で、緩急とり／＼のスロープに恵まれ、白銀の山頂に立てば江州、美濃、山城、丹後の銀嶺は指呼の間であり、雄大な山岳美に陶醉し壯快極りないものがある。

琵琶湖に沿ふて武奈、蓬萊の峻峰互にその雄を競ふところ純然たる山岳スキーコースを形成してゐる。

る。特に蓬萊山から小女郎池へのコースは萬目白皚々たる處女地、雪質もよく、スキーヤー垂涎の地であり、熟練者向の山岳スキー場である。

設備としては小女郎、打見、武奈の頂上に山小屋があり、比良口驛からの登山路も完備してゐる。

比良山脈をめぐる傳説は數多く、山の神秘を包んで靜かに湖畔に優美な姿を横たへてゐる。

山頂に立てば清純なオゾンに満ち、地元の人々は稱して「仁丹瓦斯」といふ。標高の低きに拘らず獨特の深山美がみられ、溪谷、瀧、原始林、崖、巖と變化にとんで、眺望又雄大、容姿の美しさは他山を壓してゐる。

冬の山岳スキーツアーコースとして推奨すべきと共に早春のスキーハイクに、又は初夏のハイキング或は紅葉の秋を訪ねる等、四季を通じて登山の喜びを味ふに適はしい。本叢書第二輯「ハイキングコース」に夫々のコースが掲げてあるから参照されたい。

7. 多賀スキー場

交通 近江鐵道多賀驛下車、スキー場までバスの便がある。

神詣でとハイキングに既に有名な多賀附近も冬來れば好ましいスキー場として賑ふ。即ち「お多賀詣り」で有名な官幣大社多賀神社から約四軒、多賀驛からバスが連絡し交通の便に恵まれたスキー場である。面積は二十萬坪。向きは北で傾斜は五度から三十五度まで緩急各種が自由にとれ、一軒の直滑降コース、三軒のリレーコースもとれる。一般向の練習に好適なゲレンデである。

眺望は湖東平野を一眸に、琵琶湖をも望み得て素晴らしい。伊吹山と共に湖東スキー場の双壁をなすものといへる。

設備としては、スキー場の入口に四棟のヒュッテがあり、スキーヤーのための賣店、貸スキーの便がある。宿泊は地元の民家が一泊七十錢程度でサービスする。

8. 箱館山スキー場

交通 江若鐵道今津驛下車、山麓まで六軒。自動車の便がある。

高島郡川上村にあり、その名もスキーに適はしい箱館山は新しく開拓されたスキー場であつて、雪質もよく、開潤な尾根をゆくコースも興味深い。

面積數十萬坪、自動車を出麓に捨て、登行約二軒、尾根は互に滑走路を以て連続し、熟練者のスキーヤーの滑意をそゝるに充分である。

山頂に達すれば緩急自由にスロープは至るところに散在し大衆的なゲレンデが展開される。

しかも、春雪の量も多く早春の光を浴びてのスキーハイクの豪快さも味ハる強味がある。

今シーズンからはブツシユも刈り取られ、指導標も立ち、ヒュツテが新築されて賣店も開かれる。

従來の不備は一掃されて湖國の新スキー場として華々しくデヴューしたわけである。

9. 靈仙山スキー場

交通 東海道線醒井驛下車、麓まで八軒、自動車の便がある。

靈仙山は山頂に數萬坪の平坦地があり、山頂の風景は阿蘇、輕井澤に似てゐる。北西に琵琶湖を控へ、南東遙かに伊勢灣がある。

本縣の新觀光地醒井溪谷（醒井養鱒場のあるところ）から四軒の登行をすれば、眺望絶佳な山頂に達する。スキー場としては未だ餘り知られないが、所謂隠れたる優秀スキー場である。スロープも緩急自在各所にとれ、地形の變化にも富んで、新しいスキー場として推奨するに足るものである。

ただ、目下山小屋等の設備なき點は遺憾であるが、スキーツアを試みる人々には是非一度は踏破されんことをおすゝめする。

10・大浦スキー場

交通 太湖汽船海津港上陸、ツアアにて踏破。

海津からスキーを穿いてツアアを試み、山を越えれば大浦スキー場に達する。優雅な山容を横たへ、その白銀の肌はスキーヤーの來訪を待つてゐる。熟練者向きのツアアコースとして推賞すべきものである。變化に富んだ景觀は冬山をゆく壯快さを味ふに適はしい。

尙、大浦附近のツアアコースに就ては「附録」に掲げた湖北山塊のスキー場によつてその全貌を知られんことを希望する。

11・柳ヶ瀬スキー場

交通 北陸線柳ヶ瀬驛下車、驛の直ぐ背後

雪の柳ヶ瀬は湖國とは思へぬ深雪である。北陸路に近いただけ特殊な情緒があり、驛のすぐ後に擴がるスロープは一つではあるが、上の方は急で熟練者に向き、中程からは緩傾斜のため初心者に向く。婦人小供向な好適なゲレンデである。設備としては山小屋が一棟ある。

12・赤子山スキー場

交通 北陸線中ノ郷驛下車、約二軒

既に北陸に近い赤子山は雪國らしい感じである。自然のスロープが近隣の人々によつてスキー場に利用されてゐる。山小屋が一棟あり素朴なスキー場として微笑ましい情景を展開してゐる。

13・長尾スキー場

交通 江若鐵道安曇驛下車、約八軒

朽木スキー場に隣接せるもので、朽木と同様、スロープには緩急があり、大衆向なスキー場である。設備は現在のところ不完全であるが、朽木からの連絡コースとして取入れ、ば面白い。

14・比叡山スキー場

交通 叡山ケーブルにて四明嶽驛下車

驛からスキーを穿いて行ける。蛇ヶ池ゲレンデは大衆向なスキー場として好適である。ヒユツテは四棟あり、交通の便もよく日歸りのスキーヤーの利用が特に多い。眺望は遠く琵琶湖をのぞみ、四明嶽ならでは味はへぬ雄大な景観である。

15・其他のスキー適地

本縣のスキー適地としては以上のスキー場の他、降雪さへあれば滑れる好適な場所がある。いまそ

の中から次の三つを掲げておく。

豊 公 園

長濱町の公園。湖岸に近く、面積も相當廣く、スロープも緩やかなものが各種あつて、ゲレンデスキーの快は充分樂しめる。

長 等 公 園

大津市の公園。長等山一帯を脊にして各種のスロープがとれ、積雪さへあれば可成り面白いスキー場となる。

山中越ドライブ路

山中越のドライブウェイも亦降雪の時は愉快なスキーコースとなる。特に「馬の脊」邊りから下降しつゝスキーを樂しむによい。しかもコース沿ひの風景は素晴らしい。

附
録

湖北山塊のスキー場

湖北山塊のスキー場

★奥牧野を中心として★

影 山 寅 造

参照地図：陸地測量部五萬分一の地形圖（滋賀、竹生島、西津村、熊川）

茲に所謂湖北山塊、江若越國境附近のスキー地と云ふのは北陸線、木ノ本、柳ヶ瀬附近より線路に沿ひ、敦賀に向つて小濱線を西へ、河原崎を南に、三宅驛附近より若狭街道を東へ、滋賀縣今津町より更に、琵琶湖の北岸を東に、木之本附近に至る線をアウトラインとした地方を指すのである。

そして此の地域のツアに於ては其の中心點を奥牧野、又は三國山に置くことが最も便利である。それは山麓では尾根筋等の天候が充分判らぬ時、牧野より一度赤坂ヒュツテ迄登り、天候が悪ければ赤坂附近か三國山、阿彌陀頭附近で遊んで下山すれば荒天の時でも面白く滑れるし天候、雪質が好ければ各方面に愉快なツアーが出来るから尙交通も自動車を利用し得る便利がある。

雪質

此の地方の雪質は大體良好の方で悪くて困つたと云ふ事は少い。赤坂附近で風の強い時には雪がバリ／＼に凍つて居ても三國山に行けば愉快に滑れた例は度々ある。私は今年(昭和七年)も一月二日より四月十八日迄の間に十五回滑り廻つたが四月に入つて、ザラメ雪の時でも、クリスターが良く利いて愉快に滑ることが出来て不愉快だと思つた事は一度もなかつた。自分の此の地方で経験した一番よい粉雪は三月十日であつたが、同行した古いスキー家で、サンモリツツで度々滑つた事のあるO氏はサンモリツツ以來の雪だと激賞した位で平均粉雪の時が多かつたので惹きつけられた點が多い。

風

然し此の地方の山で荒天の時に、日本海より吹きつける風は場所によつて可なり激しく油断のならぬものがある。今年三月二十日(日本アルプス地方が盛に荒れた時)乗鞍嶽の西南(何時も其の西側に岩石露出の箇所の下、等高線の荒い、西のカヤバとでも云ひたい處)で會つた吹雪の猛烈さは、八百米の山とは思へぬ程の強さで尾根筋に立つて居る事が困難で在原側の谷に一時間程避難して、やつと國境(地名)に引返した事もある。(時間的に見て在原へ降らうかとも考へたが下の方が急峻過ぎるので元の道を

引返した)又赤坂附近でも強い風には度々會つた。其他地理的に見て、ムギの峰、野坂嶽附近も強いと思はれる。日本海より吹きつける風は吹雪を伴ひ油断のならぬものがあるので充分に注意を要する。

雪量

今年一、二月頃の様な全国的な雪餓饉の時でも雪量は可成りあり、一月十五日三國山より野坂嶽に出た時には赤坂山で三尺位、三國山で四尺位、途中の尾根筋には五、六尺、野坂嶽には六尺位の雪があり、其の雪の多いのに驚いた。

何時も赤坂附近から野坂嶽を見ると、野坂嶽は白く輝いて見えながら其の途中は黒く見えて居るが、それは澤山のブナの大木が枝を張つて居るからで其下にはシツカリ雪がある。

二月十四日、三國山より二度目の乗鞍嶽行の時には、之も前日の降雨に依つて積雪激減し乗鞍迄の途中が黒く見えて居たので大同、赤坂、三國に残つた人があつたが、一回目の時より更に全国的に雪の少ない時であつたにも不拘、赤坂一尺五寸位、三國山二尺五、六寸、葦原山三尺位乗鞍頂上には四尺位の雪があつた。二月末より三月にかけて降雪量の多い時には、三國山で八、九尺、赤坂でも七、八尺以上の時が度々あつた。三國山直下の炭焼小舎は完全に埋もり、赤坂のヒユツテさへ北側は雪に埋も

れて見出すに困難な時さへあつた。寒風山、ヒルメヅコ附近では厚さ七、八尺もあるデブリーを度々見た。又、四月十八日三重ヶ嶽、大御影山へ登つた時の如き尾根筋の厚い處は五、六尺の残雪さへ見た位の豊富さで、京阪地方より日歸りの出来る山としては充分な雪量である。

白谷にて測候した雪に關する記録を掲ぐれば左の通りである。

自大正元年至十三年累年平均(滋賀縣高島郡誌に依る)

初雪十二月八日、終雪三月二十六日、降雪日數十一月(〇・六)十二月(九・八)一月(一六・二)二月(一一・二)三月(八・三)四月(〇・四)

之は白谷で測候したもので尾根筋の降雪日數はそれより更に大である。

コース及時間

毎週水曜、土曜毎に大津出帆(午前零時)のスキー船にて三時半海津着、四時頃下船して自動車にて北牧野下車更に奥牧野に至り各コースを廻り同日午後五時頃迄にスキー船に歸着する日歸りコースを初めとして大體左記の如き各種のコースをとることが出来る。(時間記録は自分の實地踏査に依る)

1・赤坂―三國山―葦原山―乗鞍嶽―國境(地名)―路原―海津

午前三時四五分スキー船出發、四時一〇分―四時二五分牧野着發、六時一〇分―六時四〇分赤坂小舎着發、七時三〇分―八時一〇分三國山着發、第一回食事、九時白谷より峠五七〇米、一〇時六五米の頭、一〇時四〇分―一一時第二回食事、一一時四〇分葦原山(八四九米)午後零時三〇分―二時第三回食事(乗鞍手前の岩石露出せる八二〇米附近)一時三〇分―二時乗鞍嶽頂上着發、三時一〇分―三時四〇分カヤバ着發、四時一〇分國境(地名)四時三〇分―四時四五分路原着發、五時一九分海津スキー船着(自動車にて)

2・赤坂―三國山―野坂嶽

午前六時赤坂ヒュツテ出發、七時三〇分三國山、一〇時一〇分三國北下峠五四〇米、午後零時三〇分越前、山村より若狭、新庄に通ずる峠(約七一八米)二時一〇分野坂嶽、四時一〇分粟野着(汽車には敦賀經由歸阪)

3・赤坂―寒風山―ヒルメヅコ、アミノ谷―牧野第二練習場

午前七時三〇分赤坂ヒユツテ發、九時四〇分寒風山、一一時ヒルメヅコ、午後零時山下七四三米の頭、一時二〇分アミノ谷底部、二時三〇分寒風山よりの尾根鞍部、三時牧野第二練習場―海津。

4・赤坂ヒユツテ―三國山―赤坂ヒユツテ―寒風山―ヒルメヅコ―石庭―寺久保―海津スキー船

午前六時四〇分赤坂ヒユツテ發、八時三國山頂上、九時―九時五〇分赤坂ヒユツテ着發、午後零時一〇分ヒルメヅコ、二時三〇分石庭、三時―三時二〇分寺久保着發、三時五〇分海津スキー船着(自動車)

5・今津―角川―三重ヶ嶽―三又―大御影山―新庄松谷(今津―角川間の時間は後記)

午前六時四〇分角川發、一一時石田川源流、一一時三〇分四分下り尾根上、午後零時三〇分―一時三重ヶ嶽頂上着發、二時三〇分三又、四時大御影山、四時三〇分八〇三米下の鞍部、六時新庄松谷着。

6・新庄松谷―栗柄越尾根下―三國北下の峠下―栗柄越尾根下―赤坂ヒユツテ牧野―蛭口―海津

午前七時松谷發、八時三〇分栗柄越尾根下、九時四〇分三國北下の峠附近、一〇時四〇分栗柄越尾根下、午後零時二〇分赤坂ヒユツテ、一時三〇分―二時牧野着發、二時三〇分蛭口着、二時二五分海津着。(自動車にて)

7・小濱線―十村―能登野峠―三又―大御影山―石庭―今津(昭和七年四月二日Y氏及O・S氏の記録)

午前六時五八分―七時四〇分十村着發、一〇時一五分―一〇時四五分能登野峠(六五〇米)着發、一時三〇分第一回食事、午後零時三〇分國境線七五〇米九の頭の南方、三又の尾根七七〇米附近、一時三〇分三又(八五四米二)の北方を大御影山に降り鞍部にて第二回食事、二時三〇分大御影山(九五〇米)―四時―四時三〇分第三回食事、六時五〇分石庭道を降る、七時三〇分石庭、八時寺久保(自動車に乗る)八時二五分―八時四五分今津着發。

其他自分は未踏であるが面白いコースと思はれる主なるものは

- 1・ 國境(字名)―大浦越―深坂越―三方嶽―行市山―柳瀬
- 2・ 國境(字名)―北萬字山(五七二米)―萬字山(四六五米)―饅頭越―小荒―海津
- 3・ 乘鞍嶽―カヤバ―七三六の頭(アラチ山?)―七六五米(阿岐師山?)―山(字名)又は疋田
- 4・ 三國山―八六四米の肩(野坂嶽尾根の途中)から八四六米の頭を右に八五六米一の頭―五八三米
三の頭―松谷
- 5・ 松谷―雲谷山の尾根―雲谷山―矢筈山(別名雪が積れば飯盛の如き故飯盛山とも云ふ四五九米
九)―河原市
- 6・ 十村―能登野峠―國境線を南に―三十三間山―六九六米の頭―六三二米四の頭―倉見―十村
(又は尙國境線に沿ひ四二五米―大杉―三宅)

各コースの難易

- 1・ 牧野より赤坂ヒユツテ迄約五軒の登りは山道として普通、降りには曲りが多いので骨が折れる代

り面白い。山に行く人の爲には好い練習になる。赤坂山八二三米七(栗柄山?)はヒユツテの後方小高い處で日本海が見える。ヒユツテの降りは面白い。此處より三國の鞍部の降りは多くの場合強風の爲めクラストと吹溜りとの連続であるが二、三分間で降れるので大した事はない。

鞍部より三國山迄は雪の多い時はどこでも登れるが、雪の少い時は國境線を傳ふが(之は明王のハゲ(白谷山?)附近に多少危険な箇所もありヤブもあるので夏路の方がよい)鞍部のヤブの間の通り易い處を澤に沿つて左に少し降り炭焼小舎の前に出で(小舎の前には澤を渡る)夏道を八四〇米(白谷山?)の横を廻り登切る手前を三國より出て居る澤の右手にある道を三國山下の炭焼小舎の前に出で適宜三國山に登ればよい。此處も日本海―白山方面、湖東の山々がよく見える。此の炭焼小舎の前の澤は殊に雪が多く三十度に近い斜面に四、五尺乃至十尺位の雪はシーズン中何時でもあるので直滑降の好練習場である。

三國山より黒河越(三國東直下の峠)の峠に降るには國境に沿つて東する。此の邊はたゞ広い尾根で峠が見えぬ爲め六五一米四の頭下にあるグレを目標に眞東に降れば峠に出る。途中の傾斜二十五、六度―三十度位の處もあり二、三尺の雪の時にはブツシュが多いので確實な滑り方の練習になる。(峠よ

り白谷に降るには十數度の徒渉を要する。白谷迄約二時間峠より國境を六五二米四の頭から尾根を北に行く、此の邊より三國山の北の尾根はよく見える。第二の峠は歩き易く第二の峠には青年團(?)の木標が立つて居る(此の峠より白谷に下つた事はないが、黒河越を下るよりは好いらしい。此の峠より葦原山の登りは可なり急で長い氣がする)

葦原山(八四九)より八〇二米に取付くには多少迷ひ易いが、葦原山の南の臺地から疎林の間を思ひ切つて東南に降り尾根は廣いが高處々々をと八〇二米附近に出る。此處迄來れば國境線の北側に四尺幅位の道があり、雪の多い時でも霧さへなければ迷ふ事はない(此の邊最も愉快に滑れる)乗鞍の手前の峰は強風の爲め岩石の露出して居る箇所があり、道は其の北側を巻いて居る(在原に降るには此の峰の東南に出た尾根の切開きに沿ひ急峻な降り一時間半位で達するが注意を要する。在原を東に十數丁は少しの登り、それより路原迄のデツクザツクの降りは道幅もあり面白さうだが自分は暗夜に通つたのでスキーは脱いだ。又在原に降らず上の尾根を東に地形圖の等高線の荒い處を北東に國境(字名)に降つても面白いと思つて居る)

鞍部より乗鞍の頂上迄は一息で、頂上より日本海―野坂嶽―三國連峰の景觀は此邊での白眉で東北

に見へる加能越の眞白い山々には引きつけられる。頂上より東北の尾根の降りも可なり急である。途中にある針葉樹には心を引かれる。降り切つた處をカヤバと云ひ、好練習場である。又登り詰めれば尾根は三つに分れて居る。北に行けば駄口又は阿岐師山?(七六五米二)山(地名)又は疋田に通じ東北の尾根は山中附近に通じてゐる東南の尾根を雪庇の出で居る處(大したものには非ず)の左の方を降り少し登つて國境線の南側の切開けを降れば尾根筋の道に出る(切開けに出るには六四〇米附近尾根の急に落ち込んで居る處から右手ブツシュの成るべく空いて居る處を約半丁も降ればよい。道を東南に降れば國境(字名)に出て西近江路を路原―野口―海津に出る(雪の工合にて自動車は野口―路原―國境(字名)迄も通じ雪の無い時は敦賀に通ず)國境(字名)より乗鞍嶽を望めば其の山容は文晁の名山圖譜を思はしめるものがある。

2・三國山迄は1に同じ、山頂より眞北の尾根を五六百米降つた處より急になり、今迄は狭いとは思はない切開けも急に狭いと感じ出す。七五七米附近よりの急斜の二米程の道幅をデツクザツクに降る時は其の人のもつスキーの實力が分る。

降り切つて五四〇米の峠には道らしきものが通じ、右下約三百米の處に炭焼小舎が二つ見える(此處より谷筋を降れば約三時間にして松谷に通ず)ブナの木の間をヒタ登りに國境線を行く、松谷の上に出る美しい尾根を右に見て八六四米四を過ぎ越前山村より若狭新庄に通じて居る峠迄來れば、野坂嶽迄は案外樂に登れる(三國下より野坂迄等高度約十米の降り五回と同じく約四、五十米の降り四回の小隆起あり)

野坂嶽の頂上附近は絶好の練習場である。三角點には未だ櫓があり其の西北に小祠がある。此處より日本海及び海岸線等の展望と三國連峰の雪の景觀とは共に絶讚に値するものである。祠の前の尾根を北に降り七四六の峰を右巻に東北に出た急な尾根をグン／＼降れば道は愈々急峻で北に電光形に下つて居る。不動尊の前より澤傳ひの道は樂になるが其處迄はとても急傾斜で木があるから心丈夫なもの、雪崩の心配は充分ある。

更に降ると地形圖にある鳥居を潜り、鐵道線路に出て村には入らず線路に沿ひ約一キロ左すれば小濱線粟野驛に着く。野坂より安全に降るには頂上の南方より國境線を西に七三七米—更に六八二米—五三九米より關峠又は關に降れば好いと思つて居る。(時間は餘分にかゝる)

3・赤坂ヒュツテ前の練習場を登り切つて南に出張つた尾根の頭(阿彌陀頭、栗柄山?七九二米)附近も又絶好の練習場である。寒風山に行くには此の峰に行かず尾根を西北に國境線に沿ひ左側の雪庇に注意しつゝ、大塚山(八四〇米)を右に疎林の間を左して西北に降りて寒風山の尾根ムギノ峰に取付く、左側に雪庇が出て居る處を過ぎて右に廻れば寒風山(八五〇米)の頂上の廣い原に出る。(此處の東南に出て居る急な尾根を降れば下の第二練習場の左上に出る)頂上より西、ノト又谷を隔てゝ大御影山を見れば其の雪量と尾根の線は九五〇米の山とは思はれぬものがある。國境線を南に右に廻り氣味に廣い尾根を降り、ヒルメヅコとの鞍部に着く、此降りの左側は三十度以上と思はれる急峻な谷で其處で大雪崩のデブリの厚み七八尺のものを度々見た。右寄りには滑らかな二十度位の谷である。約七十米(等高度)登れば、ヒルメヅコ、八一三米九(大谷山)の頂であり、琵琶湖がよく見える。

それより南に約七十米(等高度)降り更に十米程登つた頭を、東に出て居る灌木のある尾根を四百米程降れば二十度程の斜面も急にはなるが廣くなる。大きくターンをし乍ら降つて、アメノ谷の水邊に出る。水に沿ふて五百米(距離)程上流を右の寒風山より出て居る尾根の鞍部に登り切開を第二練習場

の左上に出る。

4・ヒルメヅコより前記十米程登つた頭を東せず、南に八百米程下つた處で東に出て居る尾根の南側について居る夏道を下り、三五〇米九の肩を石庭に下るか、又は途中の岐れ道を右に辻に下るのであるが、辻に出ては迂廻道になるから、石庭に下る方がよい。又ヒルメヅコ頂上より西南國境線に沿ひ五百米(距離)程下り三百米(距離)程登れば其邊より白く映えた三重ヶ嶽―ブナ嶽の頭の輝きも見え練習場としても好いので此方に来てよい。歸途は此處より夏道の上を行けば石庭の降口に合す。

5・之は四月十八日に行つたのでスキーは三重ヶ嶽近く迄擔いだ。今津―保坂間自動車(約二十五分)保坂―角川間(徒歩十五分、此間も充分自動車は通じ村の廣場で自動車は廻せるも運轉手不案内にて保坂にて下車)角川迄の道の立木の間から見下す朝靄に煙る田と石田川の景觀は近頃遠出の出来ぬ自分には此の上なき喜ばしさであつた。

角川より更に石田川の谷筋を四分下りの頭(三重ヶ嶽西南八四三米三より南に出て居る尾根の頭)迄は途中残雪はあつたが途ざれ〜になつて居るのでスキーを擔いで行く。デブリも二三見た。炭燒の

盛んな地方だけに谷筋の道は案外好かつた。四、五の炭燒小舎も見た。四分下り尾根下の最後の炭燒小舎より上には道なく約一軒ブツシュの中をスキーを抱へて泳いだ(十日程早ければ角川よりスキーにて武奈ヶ嶽の尾根筋を三重に行けた筈)石田川源流を離れて八四三米の下で残雪一、二尺此の邊よりスキーを履く、二、三尺の雪を踏んで三重に登る氣持は高原を歩いて居る様なのんびりしたものであつた。三重ヶ嶽の頂上より雪に輝く白山と御嶽らしい山が見えた。附近の二十七、八度の斜面では少しの不安なしに直滑降が出来る丈の雪量があつたのは驚いた。眞北の九六〇米程の頭を北に降る尾根筋の四、五間のヤブはひどかつたが東側を通ればスキーのまゝ行けた。八八四米四を過ぎ三又(八五四米二)より國境線の南側を大御影山の鞍部(七三八米)に降る。雪さへ多ければ、面白く滑れるのに四月も中旬を過ぎて居るので二、三尺の雪で灌木に惱まされたがそれでもスキーは履いたまゝだつた。大御影山の登りは灌木もあつたが雪が多かつたので苦にはならなかつた。途中の處々にシヤクナゲが固い蕾をつけて待つて居てくれたには、心から嬉しかつた。

大御影山、九五一米一(ノト又山)には雪が多く展望も絶佳であつた。東北に延びた尾根を八〇三米三下迄十五度内外の二キロ程の斜面の滑降は氣持がよい。夏道は尾根の西側にあるのを、雪の多い東

側を滑つたので、雪の切れ出した五九六米四の頭の鞍部邊より身丈より高いヤブの中をもがいて西側に出て夏道を降る。道には目立つてシヨジョーバカマが多かつた。左にノト又の谷を見乍ら新庄松谷に入る。

二、三月頃の雪の多い時には五九六米四と八〇三米三との鞍部を西に、ノト又谷に降り、ノト又の本流に沿ふて松谷に入つた方が良いと思ふ。

6・松谷、栗柄間の地形圖にある道は廢道になり、耳川に沿ふて新道が開けて居る。栗柄は以前は人家が五、六軒在つたが今は無人だから、注意を要する。栗柄越の尾根下へは可成り上流迄良い道が幾條もあつて迷ひ易いが、耳川本流に沿ふて上り、此の邊には珍らしい松の太木の見えて居る尾根の下に「右栗柄越」の標木がある處を登る。雪の多い時でも其の松を目標にすれば迷はずに登れる。

五、六十米も登り松の横を通り、更に十數分間登ると尾根の西側五、六百米（距離）向ふに可なり大きい瀧が見える。左三國山より出て居るのをウツロの瀧、右ムキの峰より出て居るのをイノハナの瀧と云ふ。五百八十米附近で、道は左右に分れ、右の道に炭焼小屋が見えたが地形圖通り左の道を登つ

た。

水の落ちて居る處を横切り其の左側の上に登つた邊より（五五〇米附近）スキーを履く、二米巾位の切開けもあり、道らしいものも二、三あつて迷つたが、赤坂の頭が見えるので安心して登つた。栗柄越の石標で道を知りスキーを脱いで赤坂ヒユツテに着いた。時季が四月十九日なので雪は赤坂北面には可なりあつたがヒユツテ側には厚さ三尺位、巾百米、長さ二百米位の残雪が二箇所あつた丈で、スキーを擔いでは體がフラ／＼する程の南の烈風なので練習も出來ず、ヒユツテは閉つて居るので其の風下で晝食を済して栗柄越路を牧野に降る。

初めての橋迄は半分程残つて居る残雪を踏んで下る。橋より下の道の兩側の處々に咲いて居た山櫻の花に慰められ乍ら静寂の牧野練習場を通り蛭口に出て乗合自動車で海津に着いた。

前記の栗柄越の標木を左に谷筋を三國北の下、峠（野坂嶽に出る途中）附近に登る間、道もよし、炭焼小屋が三、四あつた。此の峠附近より都合にて松谷に下る時の重要な通路と思へる。此の邊の（ノト又谷も）谷底を積雪時に通つても大丈夫と聞いて居る。木が多いから雪崩の心配は少いと思はれる。

耳川の清流は雪解けの出水で路上六、七寸も流れて居る處もあつたが積雪期には水は少い事と思ふ、

ドカ雪の時は矢張り澤には入らぬ方がよい。

山名

此の邊の山名は村々で違ふ様で、例を揚ぐれば、

ヒルメヅコ：寺久保で聞いた名で牧野では大谷山と教へられた。

大御影山・能登野では三尾と云ひ松谷ではノト又山と聞いた。

赤坂の頭は粟柄山？とも思はれる。明王のハゲは白谷山？と思はれる。

阿彌陀頭も粟柄山とも思はれる。粟柄山は百瀬川源流附近にもあるらしいが、赤坂と阿彌陀頭邊りにある筈だ。

松谷で七十幾歳の土地の老人に三國山裏手附近の様子を尋ねたが、此の邊に三國山と云ふ山があるの知らんと聞かされて悲觀もし、其の吞氣さを羨みもした。あの山、この山の稱呼ですんで居るらしい。多くの人は山名等は全然知らず、四枚の地形圖を見ても多數ある三角點、獨立標高點其他を

見ても山名は私の云ふアウトラインの内側で、敦賀圖幅内一〇、竹生島圖幅内四、西津村圖幅内〇、熊川圖幅内三、計一七よりないのを見ても區々らしいものが分る。(古い地圖ではあるが)

古くより刈取に就て村々の争ひが多かつた程、炭焼は盛んな地方丈けに木のある主なる谷筋の多くには炭焼小舎があり、其内の廢屋の如きも雪崩で潰れたのは見當らず(勿論雪崩を避けて建てゝはあるが)古いものが積雪の重みで潰れたのは處々で見た。

此の地方にツアを試みる時大抵はスキー船を利用するので、朝は早い、歸りも早く五時か五時半海津出帆のスキー船に乗るので自動車の通じて居る街道に四時頃迄には出る様に計畫すれば無理がなく(時々歸途を汽車にするがそれでも日歸りは出来る)日曜日スキーで楽しむに好適の地方の一つとして推奨するに足ると思ふ。

山麓地方の交通機關及び積雪其他

▽海津町 毎日八回大津方面及び長濱方面間に定期船着發、今津間定期自動車十六回着發及十二月下旬より三月下旬迄は定期に大津發のスキー船(朝三時半)入港、同日午後五時頃復航出帆、牧野行はス

スキー船と連絡の自動車多数往復(所要時間十五分)旅舎あり。

▽北牧野 牧野スキー場へ数丁、此處は赤坂其の他の山地への出發點、スキー船連絡の自動車及び今津往復の自動車多数往復す。平日は蛭口迄徒歩、蛭口より定期自動車にて今津、海津に連絡、旅舎一軒あり、寺久保より徒歩三十分にして石庭、同所よりヒルメヅコの登路あり若狭に通ず。

▽劍熊村 國境(字名)、路原、野口方面に自動車通ずるも積雪期は不通の場合多し、同村在原は好練習場。

▽大浦 大津、長濱より定期船一日二回着發、徒歩にて大浦越饅頭越八田部越に通ず。

▽鹽津 大津、長濱より一日二回定期船着發、北陸線木ノ本驛より定期自動車あり、集福寺迄二回往復、積雪、平地にて二尺、山地にて四、五尺旅舎三軒あり。

▽中之郷驛(北陸線) 徒歩にてゴンゲン越、池原越に通じ又池原より行市山に登口ありと云ふ、驛の東方十三町餘りに赤子山スキー場あり。

▽正田驛(北陸線) 駄口、山中に通ず。

▽栗野驛(小濱線) 黒河官林へは徒歩二時間、附近の積雪十二月下旬より三月迄最深尺度五尺以上、

普通一、二尺、野坂嶽の登路旅舎金山にあり、驛前にも宿泊可能。

▽河原市驛(小濱線) 新庄へ約一里二十丁、新庄より大谷原迄徒歩十分、竹屋谷にビョブ瀧あり、松谷と共に栗柄越雲谷山大御影山に近く積雪期十二月下旬より三月中旬最深雪度約三尺。

▽十村驛(小濱線) 各山麓迄徒歩三十分、能登野峠迄二時間半、倉見、三十三間山々麓迄二時間、積雪は山地十二月八日頃より四月十日頃迄、平地十二月中旬より二月下旬迄、最深尺度山地十尺、平地四尺―二尺、雪崩の出る處極小部分にて毎年出る事なし旅舎、井崎、横渡、上野にあり。

▽爪生村(小濱線) 三宅驛より自動車約參拾錢、徒歩四十分にて山地に達す。積雪十二月中旬三月―中旬最深雪度六尺、宿泊可能の部落末野、安賀里、下吉田。

▽熊川(小濱線) 三宅驛及び近江今津町より定期自動車あり、新道谷を経て末野、倉見に通じ西南方は河内鑛泉、河内スキー場を経て木地山、百里ヶ嶽に至る。

▽三谷村字角川 三重ヶ嶽、武奈嶽の登口、今津より自動車通ず。

▽今津町 大津より定期船一日八回着發、江若鐵道二十八回着發、海津間定期自動車十數回、熊川間定期自動車十回着發、旅館今津町二十餘。

▽川上村 西近江路に在る。桂、深清水、中庄等には定期自動車一日十數回着發、處女湖、砂防堰堤、酒波寺等の名勝あり、積雪十二月下旬―三月上旬最深雪度六尺。

▽百瀬村 知内、大津、長濱より定期船一日六回着發、澤迄約十五分徒歩、澤海津、今津より定期自動車十六回着發、辻迄徒歩十三丁、辻よりヒルメヅコの登路あり、平地積雪十二月中旬―三月下旬最深雪度四尺、澤に旅舎五軒あり。

昭和十二年十二月十五日發行

スキ―適地案内 滋賀縣觀光叢書第三輯

發行者兼 滋賀縣
 代表者 前川 鬼子 男
 印刷者 中村 七右衛門
 印刷所 中村 太古舎
大津市四ノ宮町一六

滋賀縣觀光叢書

本縣觀光指導參考書の定本
あらゆる観光対象の紹介案内

- | | | | |
|-----|----------|---|----|
| 第一輯 | 神社詣 | て | 既刊 |
| 第二輯 | ハイキングコース | | 既刊 |
| 第三輯 | スキー適地案内 | | 既刊 |
| 第四輯 | 観光光手帳 | | 近刊 |
| 第五輯 | 名園めぐり | | |
| 第六輯 | 釣と釣場案内 | | |
| 第七輯 | 寺院巡り | | |
| 第八輯 | 名勝めぐり | | |
| 第九輯 | キャンプ適地案内 | | |
| 第十輯 | 史蹟と傳説 | | |

終



七